

テクノス V2・V2Ex
LAN 版プロテクタ設定 説明書
(第3版)



目 次

1. LAN 版プロテクトシステムの概要	2
2. LAN 版プロテクタ設定手順	2
2.1. サーバーとするコンピュータの選択	2
2.2. サーバーへの LAN 版ドライバの設定	2
2.3. クライアント側のインストール	5
2.4. サーバーへの LAN 版プロテクタ取り付け	5
2.5. サーバーの電源オプションの確認	6
2.6. クライアント側からの動作テスト	7
2.7. クライアント側のファイアウォールの設定	7
2.8. サーバー側のファイアウォールの設定	8

1. LAN 版プロテクトシステムの概要

テクノス V2 および V2Ex（以下、V2・V2Ex）ではライセンスを管理するために USB 型のプロテクタを利用しています。プロテクタの種類としてスタンドアロン版と LAN 版が存在します。

スタンドアロン版とは 1 ライセンスのみ利用できるタイプのものでコンピュータ 1 台に 1 本のプロテクタが必要となります。また、LAN 版とはプロテクタ 1 本につき同一 LAN（同一セグメント）内で使用される 10 本分のライセンスを管理できるタイプのもので、このように LAN 版プロテクタを利用すれば、同一 LAN 内において 10 本分までのライセンスを個々のコンピュータにはプロテクタを接続せずに利用できることとなります。

ただし LAN 版プロテクタとはライセンスを管理するものであり、個々に作成された積算データおよび各種データはクライアントであるコンピュータに保存されます。

また、いずれのタイプのプロテクタをご利用したとしても作成された積算データはバックアップ・復元機能により各ソフトウェアが動作するコンピュータ間で相互利用できます。

（テクノス V2 と V2Ex ではデータ形式が異なるため、V2-V2Ex 間でのデータ交換はできません。）

なお、LAN 版プロテクタにおいてはネットワークを経由してプロテクト情報が伝達されるため、各コンピュータのファイアウォール設定等の緩和が必要となることがあります。

2. LAN 版プロテクタ設定手順

ここでは、LAN 版プロテクタを常時接続しておくコンピュータを「サーバー」、そして実際にテクノス V2・V2Ex を起動するコンピュータを「クライアント」と呼びます。

2.1. サーバーとするコンピュータの選択

次の条件を満たすコンピュータを選択します。

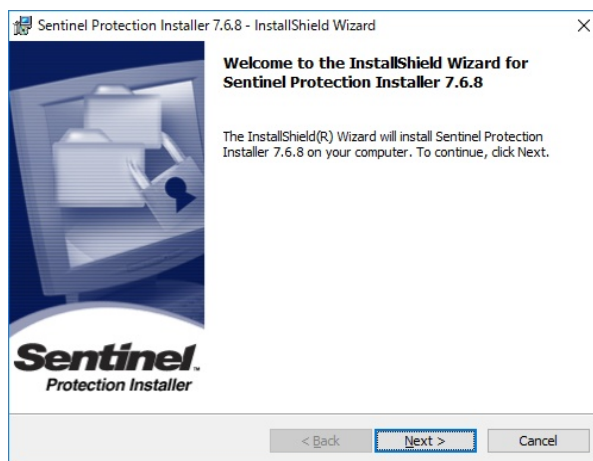
- ・テクノス V2・V2Ex を利用する間は、常に電源を投入しておく。
- ・Windows2000 以降のオペレーティングシステムを有する。
- ・ファイアウォール設定等を緩和できる。
- ・LAN 上に接続されている場合、スタンドアロン版プロテクタを接続しない。
- ・管理者権限を有したユーザーで、プロテクタのドライバを登録できる。

2.2. サーバーへの LAN 版ドライバの設定

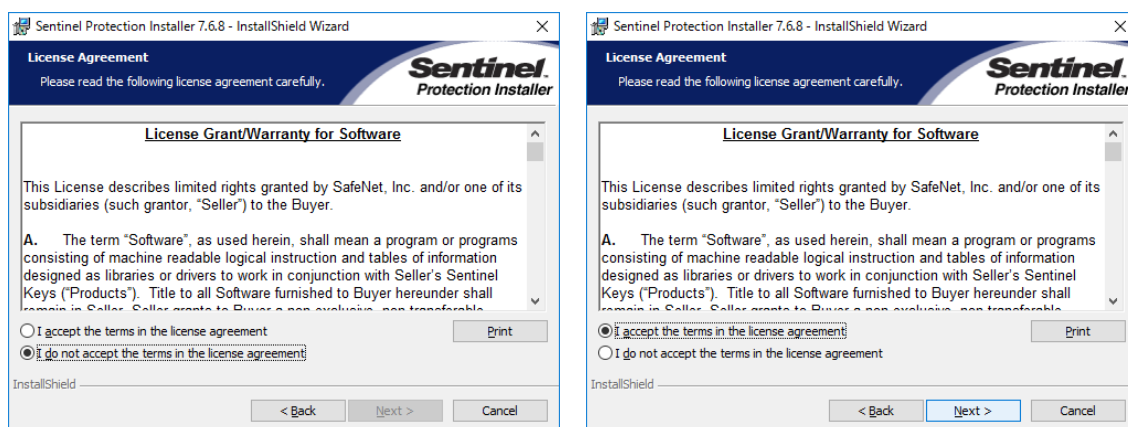
- （1） 管理者権限を有したユーザーでログオンします。
- （2） 当社ダウンロードサイトから該当インストーラをダウンロードし実行します。または LAN 版ドライバ専用 CD を CD ドライブに挿入します。
 - ・通常は、ドライバのインストーラが自動起動します。

もし、インストーラが自動で起動されない場合は、CD ドライブを開き、
SentinelProtectionInstaller_7_6_8.exe を実行します。

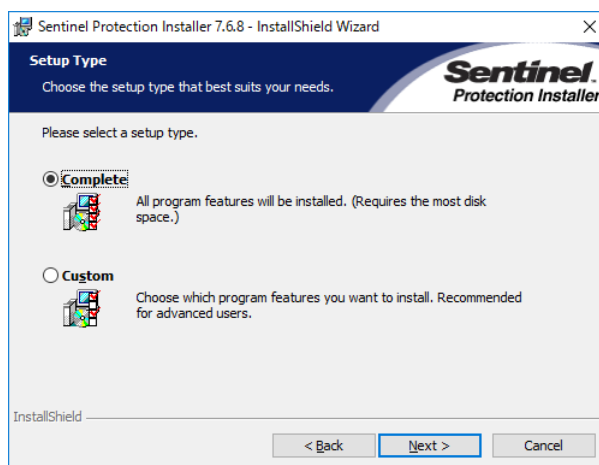
次の画面が表示されます。



- (3) Welcome to the InstallShield Wizard for Sentinel Protection … 画面で
[Next >] ボタンをクリックします。 次の画面が表示されます。



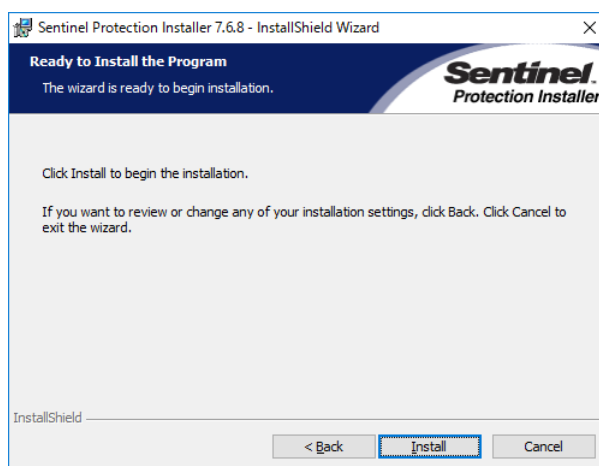
- (4) License Grant/Warranty for Software の画面にて
○ I accept the terms in the license agreement に チェックを入れ
[Next >] ボタンをクリックします。 次の画面が表示されます。



(5) Setup Type 画面にて

●Complete が選択されていることを確認し、

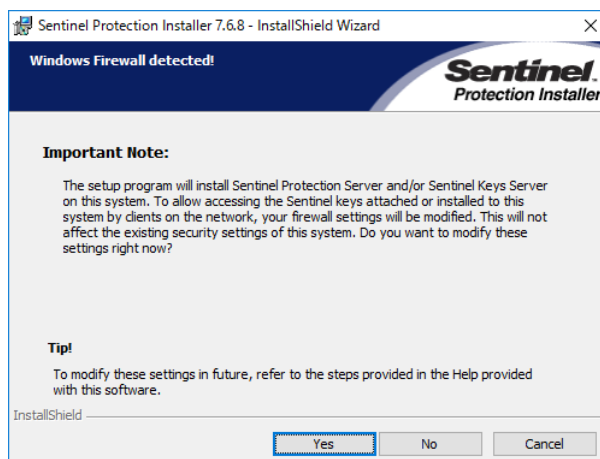
[Next >] ボタンをクリックします。 次の画面が表示されます。



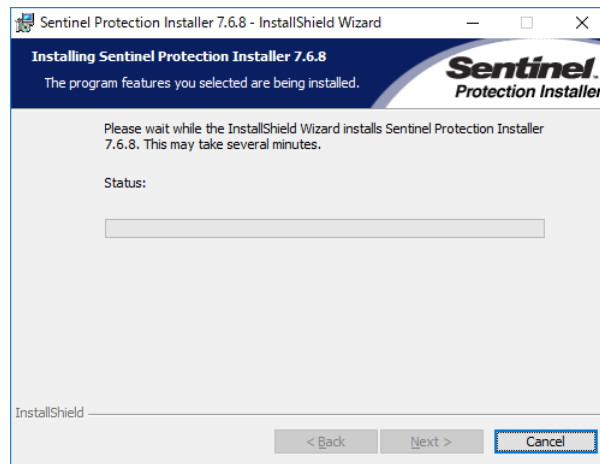
(6) Ready to Install program の画面で

[Install] ボタンをクリックします。 LAN 版ドライバのインストールが開始されます。

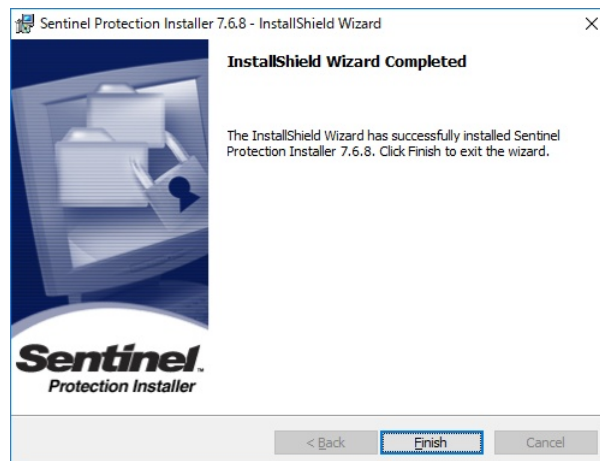
LAN 版プロテクタが機能できるように、ファイアウォール設定の変更を促す画面が表示されます。



- (7) Windows Firewall detected の画面で、[Yes] ボタンをクリックします。
次の画面が表示されます。



しばらくすると、次の画面が表示されます。



- (8) [Finish] ボタンをクリックします。これで、インストールは完了しました。

2.3. クライアント側のインストール

土木積算システム『テクノス』インストール説明書に基づき、各クライアントに『テクノス』をインストールします。

※ クライアント用の環境では、LAN 版プロテクタ・ドライバをインストールしないように注意してください。

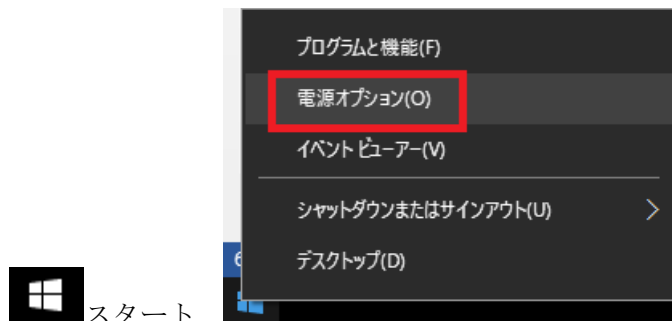
2.4. サーバーへの LAN 版プロテクタ取り付け

以上の準備ができましたら、サーバーへ LAN 版プロテクタを取り付けます。

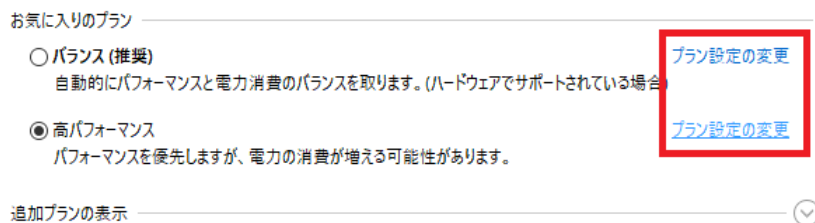
2.5. サーバーの電源オプションの確認

サーバーがスリープ状態になった際に、プロテクタへの電源供給がストップされる可能性がありますので、電源オプションの設定を確認します。

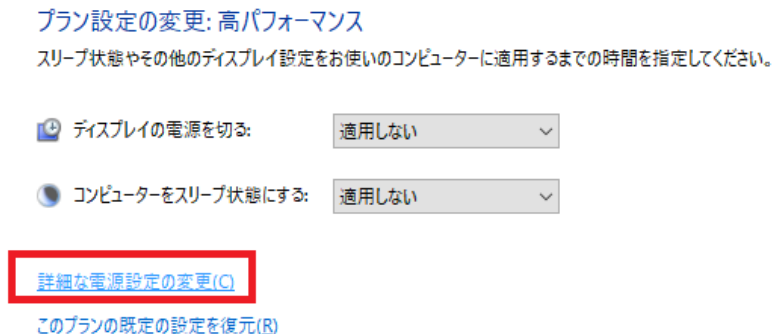
(1) スタートの上で右クリックし、メニューの中から[電源オプション(O)]をクリックします。



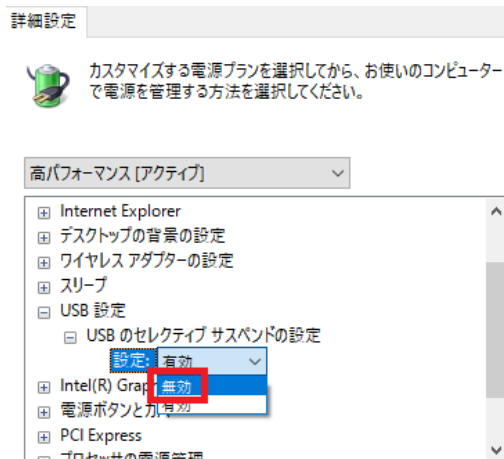
(2) プランの中からチェックされている方のプラン設定の変更をクリックします。



(3) 詳細な電源設定の変更をクリックします。



(4) USB 設定→USB のセレクトティブサスペンドの設定→設定を[無効]に変更します。



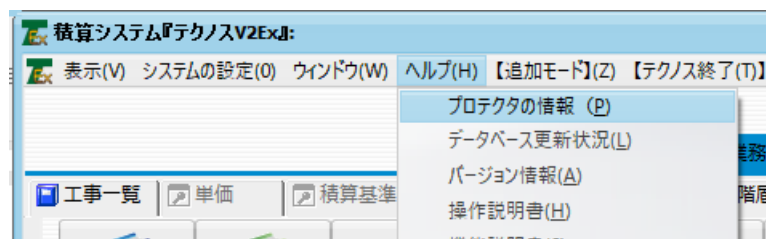
(5) [OK]ボタンをクリックし、プラン設定の編集画面を閉じます。

2.6. クライアント側からの動作テスト

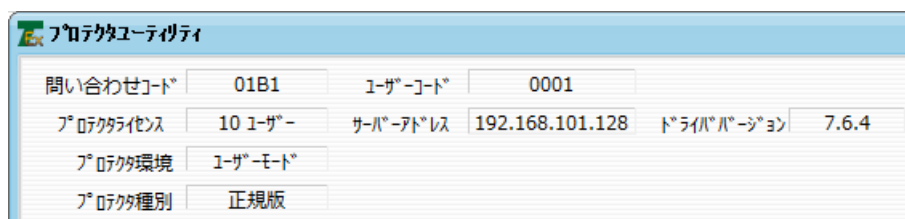
クライアントパソコン上で、土木積算システム『テクノス』を起動します。

『テクノス』がプロテクタを正常に認識できない場合は、2.7、2.8 の設定に進み、その後
に再度 2.6 を実行して下さい。

正常に起動すれば、ヘルプメニューの プロテクタの情報をクリックします。



プロテクタライセンスが 10 ユーザーになっていれば、LAN 版で動作しています。



以上で LAN 版プロテクタの設定が完了しました。

この動作が確認できれば、2.7、2.8 の設定は不要です。

2.7. クライアント側のファイアウォールの設定

ファイアウォールソフトの説明書を参考にして、次の内容を確認、設定してください。

設定項目	設定すべき内容
ポートを指定して解放する方法	クライアント側としては、 全 UDP を受信許可 (対象セグメント内で) UDP6001 を送信許可 TCP 6002 を送信許可

2.8. サーバー側のファイアウォールの設定

利用しているファイアウォールソフトの説明書を参考にして、次の内容を確認、設定してください。

設定の選択肢	設定すべき内容
アプリケーションで解放する方法	例えば、LAN 版プロテクタのインストール時に、(7) を実行すると、次の設定と同様の内容が設定されています。 【Windows のファイアウォール設定の場合】 例外設定として、次の 2 種類のプログラム ・ C:\Program Files\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel Keys Server\sntlkeyssrvr.exe (名前 : Sentinel Keys Server) ・ C:\Program Files\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel Protection Server\WinNT\spnsrvnt.exe (名前 : Sentinel Protection Server) を設定します。
ポートを指定して解放する方法	サーバー側としては、 UDP 6001 を受信許可、 TCP 6002 を受信許可 全 UDP、全 TCP を送信許可 する必要があります。

テクノス V2・V2Ex
LAN 版プロテクタ設定 説明書

著作者 — 株式会社テクノ
発行者 — 株式会社テクノ

発行日 — 2011年04月01日 初版
2017年03月23日 第2版
2017年06月01日 第3版